

写真展 能登

Vol.2

復興へ向けて



大阪会場 2025.9.12 /Fri/ — 9.28 /Sun/

開園時間 10:00～17:00 (入園時間は開園の30分前まで)

会場/万博記念公園 EXPO'70 パビリオン大阪府吹田市千里万博公園1-1

休園日/毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は直後の平日)

利用料金/大人(高校生以上) 500円、中学生以下無料(保護者同伴にて) ※別途万博記念公園への入園料がかかります。

アクセス/大阪モノレール「公園東口駅」から徒歩約12分、「万博記念公園駅」から徒歩約15分

東京会場 2025.10.15 /Wed/ — 11.5 /Wed/

平日/11:00～22:00 土日祝/11:00～19:00

会場/東京ミッドタウン八重洲 5階(POTLUCK YAESU) 東京都中央区八重洲二丁目2番1号

アクセス/JR「東京駅」から地下直結(八重洲地下街経由)、東京メトロ 丸の内線「東京駅」から地下直結(八重洲地下街経由)

プロデューサー/ディレクター

立川 直樹

写真家

ハービー・山口

松田 咲香

宮澤 正明

吉岡 栄一

展示企画設計

岸 健太

※写真展は入場無料。

※各会場ごとに展示写真枚数は異なります。

※施設の営業時間に準じ、変更になる場合がございます。

石川県観光公式WEBサイト

ほっと石川旅ねっと

<https://www.hot-ishikawa.jp/>





プロデューサー
ディレクター **立川 直樹** Naoki Tachikawa

1949年生まれ。70年代の始まりから、メディアの交流をテーマに音楽、映画、芸術、舞台など幅広いジャンルで活躍するプロデューサー／ディレクター。分野は、ロック、ジャズ、クラシック、映画音楽、アート、舞台美術、都市開発と多岐に渡る。音楽評論家・エッセイストとしても独自の視点で人気を集める。石川県では、北陸新幹線金沢開業1周年記念イベントとして「ロック・スーパー・セッション」と「ギター・サミット」をプロデュースしたのをはじめ、鋤田正義写真展や泉鏡花をテーマにした「鏡花 -KYOKA-音・語り」など、数々の展覧会やイベントを手掛け、2024年3月にはDiscover Japan特別号「石川」も執筆・プロデュースした。

NOTO

写真展

能登

Vol.2

復興へ向けて

令和6年能登半島地震、そして同年9月の奥能登豪雨により、能登地域の多くの方が被災されました。現在もなお能登では、復旧・復興が続いています。本写真展は、災害の記憶を風化させず、未来へつなぐことを目的に開催しました。来場された皆様に、能登の人々に心を寄せていただくきっかけとなれば幸いです。展示では、発災以降の能登の様子や復興への歩みに加え、地域に根付く祭りや伝統文化、人々の営みを紹介しています。これらは能登の誇りであり、地域の希望を形づくる大切な遺産です。日常を取り戻そうとする今の能登の姿から、力強さや美しさを感じていただければと思います。

作家紹介



左/イギリスのパンクロックバンド、ザ・クラッシュのジョー・ストラマー ロンドン 1980年撮影
右/きずな 東京 2004年撮影



写真家
ハービー・山口
Herbie Yamaguchi

1950年東京都出身。23歳でロンドンに渡り10年間在住、劇団の役者を経ながら写真活動に励む。折からのパンクロックのムーブメントの中、ミュージシャンのポートレートが高く評価された。幼年期に患った病歴の末、写真のテーマを「生きる希望」とし人物を撮り続けている。エッセイの執筆、ラジオのパーソナリティー、ギタリスト布袋寅泰には歌詞を提供している。テレビ番組「徹子の部屋」にも出演するなど幅広い年代層から支持されている。2011年度日本写真協会賞作家賞受賞。個展・著作多数。作家名の「ハービー」は、敬愛するジャズフルート奏者ハービーマンより。



上/鶴島のきやあらげ 下/螢



写真家
松田 咲香
Sakika Matsuda

1986年生まれ、石川県珠洲市出身・在住。2014年に東京から地元珠洲市へUターンし、国内外をはじめ、能登の祭りや営み、風景の写真を撮影している。また、ローカル情報誌の季刊誌「能登」でもカメラマンとして活動。令和6年能登半島地震で被災し、HDDが津波で浸水。データ復旧会社の支援により、データの約6割が復旧され、その写真を使った展示を行っている。現在は、珠洲市にて交流拠点「本町ステーション」を運営中。今後は、「森のスタジオ」構想を計画している。



写真家
宮澤 正明
Masaaki Miyazawa

日本大学芸術学部写真学科卒業。卒業時に日本大学芸術学会奨励賞、85年には赤外線フィルムを使用した処女作「夢十夜」でニューヨークICPインフィニティアワード新人賞など数々の賞を受賞。石川県の豊かな景観や伝統に魅了され、これまでさまざまな場所で撮影を重ねてきた。中でも、能登半島の自然美、豊かな食文化、そして温かく魅力的な人々の姿をカメラに収め、その魅力を余すところなく映し出している。



上/白米千枚田 下/あえのこと



上/あばれ祭り 下/あえのこと



写真家
吉岡 栄一
Eiichi Yoshioka

1986年生まれ。能登半島の風景に惹かれ、写真を撮り始める。27歳でフリーランスに転身し、石川県輪島市へ移住。ライフワークとして金沢や能登のお祭りを中心に撮影するほか、国内外でスナップ・アート写真を撮影している。パリやロンドンなどの国際的な写真コンペティションで上位入賞。2022年にスペイン・テルエルで開催されたフォトフェスティバルに招待され、唯一の日本人フォトグラファーとして参加し、能登の祭りの写真を展示。国内外で活躍の場を増やしている。

主催 / 公益社団法人石川県観光連盟

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地(石川県庁内) TEL.076-201-8110(月曜から金曜まで9:00～17:00(土日祝日および年末年始は休業))
特別協力:三井不動産株式会社 後援:大阪府・吹田市

アンケート募集

写真展 能登の感想をお聞かせください

右記二次元コードのフォームよりご入力してください。

